

賀

正



嵐山町長 佐久間 孝光

明けまして
おめでとう
ございます

昨年は、様々な面において区切りの一年であったと感じております。九月には私自身の町長としての一期目を町民に問う町長選挙が行われました。お陰様で二期目も町政を担うことになりましたが、気を緩めることなく、嵐山町民の健康・福祉の増進、嵐山町の発展に寄与してまいります。

九月十三日に開会した第三回嵐山町定例会において、学校再編に関わる条例改正が可決され、小中学校を一校ずつ、菅谷小学校敷地内に建設することが正式に決定されました。

また、十一月二日には、菅谷小学校百五十周年記念事業が行われました。冒頭、菅谷中学校の先輩たちが児童の前に整列し、よさこいソーラン節を披露し、大いにその場を盛り上げ、各学年の発表も合唱から群

読、六年生は菅小百五十年の歴史を紐解いてくれました。ギネス世界記録認定の発表もあり、大歓声が上が

り、「皆さん、一人ひとりの力は小さいけれど、全員で心をつなげて取り組めば、世界一になれるんだ」ということをぜひ覚えておいてください。」という荒川校長先生のメッセージには全員が胸を打たれたと思います。映像による歴代校長先生方の紹介、引田明子さん（嵐山町出身プロピアニスト、ドイツ在住）による特別授業では、ピアノの周りに児童が集まり、その演奏する指の動きまで間近で見ることができ、児童の心には一生涯印象深く残る経験となったことと思います。

更に、同月十四日には、平沢土地区画整理事業、竣功記念碑除幕式が挙行され、平沢コミュニティセンタ

ー前に記念碑が設置されました。この事業は、平成六年にスタートし、約三十年という長きにわたり歴代の理事長、役員の方々を中心に四百名を超える地権者の利害を調整するという地道な事業を推進し、かつては湿地帯であったところが、今では嵐山町の魅力発信の中心的商業施設集積地、住宅街となっております。関係各位の長年にわたるご苦労に対し、心底より感謝申し上げます。

「人が宝の町づくり」

私が掲げているスローガンは、「人が宝なんだから、これもやる、あれもやる」ということではありません。あなた自身が、家族にとって、友達にとって、町にとって、社会にとって宝のような人材になっているかを自分自身に問うていただきたいということです。

本年も、宝のような方々と手を携えて、一つひとつの試練を乗り越え、嵐山町を嵐山町らしく、更に発展させてまいります。本年もよろしくお願いいたします。



嵐山町議会議長 森 一人

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新春を健やかに迎えにいられたことと心よりお慶び申し上げます。

年頭に当たり、嵐山町議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃から、嵐山町議会に対しまして深いご理解と、議会活動に対する温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、元日に石川県能登半島で最大震度7の大地震が発生いたしました。この地震

によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

嵐山町議会では、この大災害を受けて、議員が一般質問におきまして「町の災害への備えや防災力の強化」などを改めて行政に質しました。いつ起きるかもしれない災害への備えは、その町の安全・安心に直結する重大事項であり、これと併せて更なる地域コミュニティの発展を町にはお願いするところでございます。

また、本年1月25日に大妻嵐山高등학교と共催で「ハイスクール議会」を行政のご協力のもと開催いたします。これは「開かれた議会」を目指してきた我々、嵐山町議会において初めての取組であり、若い世代から嵐山町について生の声を聴ける絶好のチャンスです。議員一同、しっかりと努めてまいります。

嵐山町議会は、これからも町民の皆さまの声を大切に、町の各種施策・事業についてのチェック機能の強化に取り組んでまいります。今後とも皆さまの一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年が皆さまにとりまして、希望に満ちた素晴らしい年になりますことを、心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。